

イワキグラフ叢書第1号
昭和36年1月1日・印刷発行

県立公園・東北の霊場

志保姫

中興才三十五世貫主上野頼栄書



株式会社

イワキグラフ社

¥30



祈願 国土安全

東洋酒販株式会社

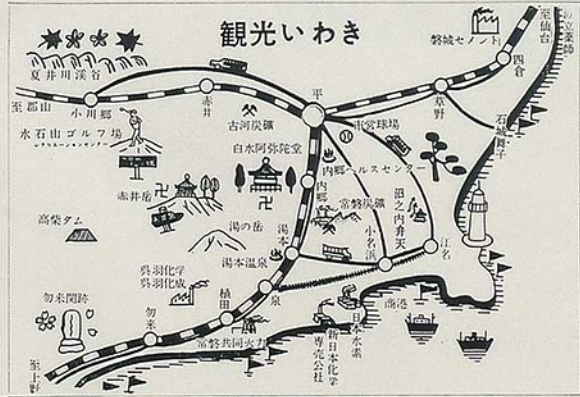
取締役社長 杉田 松太郎

平市彌宜町三四番地
電話(平)三一八八・三一八九

まえがき

石城は古くからの文化の高度さと、大自然の豊かさに恵まれている。三度の灰燼に見舞われたが、優れた文化的遺産は日本三大薬師として赤井岳があり、そこは郷土人の心の灯であり、石城が誇る天下に響くものとしてハシワイツクライン構想の拠点である。山岳仏教のメッカは、いま置き忘れられた霊場であるが、近き日に表参道の完成と相俟つて近代的信仰の場としての新しい実現が期待されているとき、この小冊子は柴燈護摩五周年を記念、信者の奉賛によつて今日の赤井岳の姿を忠実に表現し石城人の理想を道徳するともに、霊験を世に施し後古の資料としたいと考えて編んだ。

斎藤伊知郎



赤井岳常福寺貫主

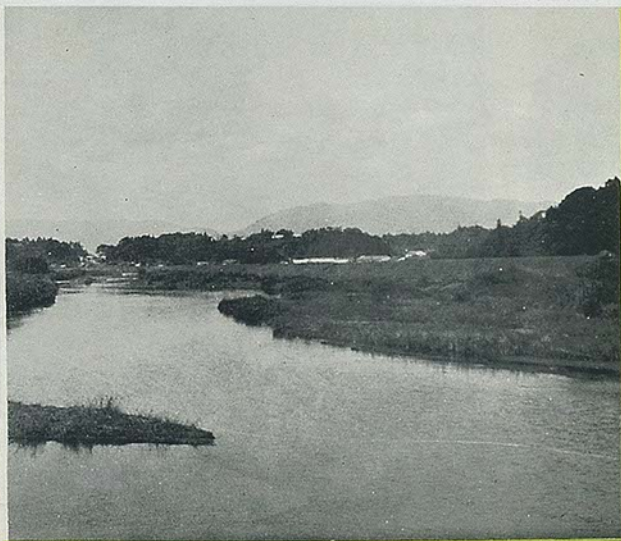
上野頼栄権大僧正

信仰心の厚い嚴父の念願により十四才で赤井岳に入寺し修業、成田中学、大正大学に学ぶ。昭和十二年支那事変がおこり出征し中支から南方ガダルカナルまで転戦すること満五年。法衣を陸軍大尉の軍服に替えた歴戦の体験を「生と死の間を彷徨し死と対峙した時に信仰に生きる己れの身の有難さを知った」と生死一如の境地に達観している。厳しき戒立と仏道一途に精進した師なる哉の言である。師は昭和二十三年、八十五才の夭寿を完うして大往生した一代の名僧智識祖純栄大僧正の信願をうけ赤井岳常福寺中興才三十五代の貫主の座に就く。明朗爽快にして瀟灑飄逸、近代的恬達にして緻密な人柄は、天領の誇えを加え大霊場の貫主として重きをなし、現在真言宗智山派總本山智積院の財政も司り、将来は全国三千六百三ヶ寺の衆望を仰う管長を目されている御人。柔道五段。

日本交通公社協定旅館
日本観光旅館連盟会員
赤井岳薬師御指定旅館

甲陽館

平市駅前中央通り
電話(平)三二八一・三二八二

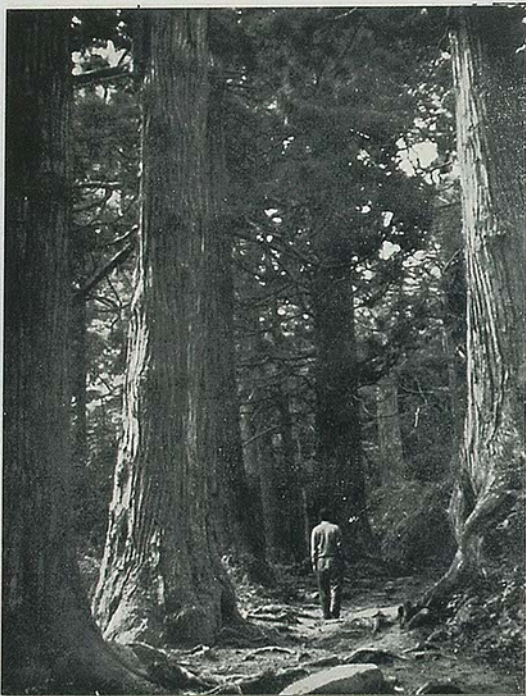


夏井川から仰ぐ霊峯赤井岳

赤井岳は石城の表徴として校歌に唱われ、詩に詠まれて石城人の志操を育み、限りなき憧憬でふるさとの人々の心に刻まれているのである。

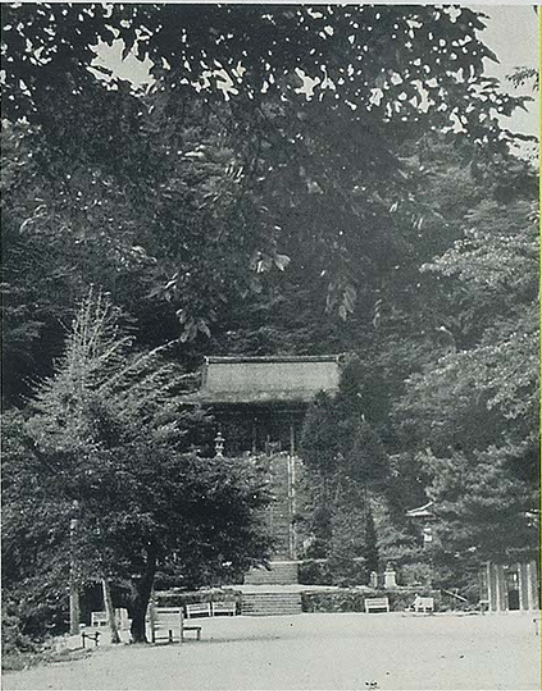
位置 当山はあぶくま山系の最東端で、福島県平市の東北に位し標高六〇五米、全山樹齢数百年の原始林に包まれた幽深閑雅な霊域である。その前面は広く開けて太平洋を眼下に收め、群山聳々と脚下に起伏す。麓より約一里、山上に一梵宇あり水晶山玉藏院常福寺と号し、真言宗智山派の関東北尊別格本山で海内屈指の巨刹である。古來世人等しく東北の総本山と稱す。

境内は三万三千坪、数百年を閲する杉、松、林立し、其の間に巨巖点綴は特に天下の霊域の名に恥じない。其の眺望また雄大にして石城七浜を一望の中に收め、夜間は各都市及炭田の燈火を眼下に望み、特に天界に遊歩するの適脱境である。昭和二八年三月県立公園に指定され道路の改修に着手、表参道よりバスの開通に備える。



開創 天平六年東北地方に大地震あり、次いで疫病流行し、病に斃れるもの、その盧舎を壊り、圧死するもの日夜相次ぎ惨状目もあてられず、大和国鸛嶺山の住僧源観上人遙にこのことを聞き座視するに忍びず、善惡畏三藏伝来の秘伝たる薬師如来を護持して險を冒し、難を凌ぎ当地に至り剣カ嶺に上り草堂を造り、尊像を安置し、三七日間精魂を傾け丹精をぬきんて折願をこらしたるに雲霞空しからず、さしもの疫病も終息するに及び上人錫を運らして大和に帰らんと尊像を霊合龍に藏めんとす。然るに何ぞ測らん尊像の重きこと大盤石の如し。上人この奇瑞に驚き、この山こそ正しく薬師尊の有縁の地なりと感得、草庵を結びこゝに止住して日夜修法と写経に精進せり。この折に写経せる数百部の薬師本願経を埋めたる山頂を経塚と稱し現在本堂の背にあり。

後七十二年を経て大同元年、徳一上人当山に詣でたるに、剣カ嶺は坂路險阻にして且つは風雪の被害甚しきを觀取し山中を巡覽して、現在地に堂宇を建立し、今日まで連續災に嘗千百五十五年を閲している。



本尊と安産守

本尊薬師如来尊像は印度龍智菩薩三七日の所請により示現し給えるを模写し、後圓浮檀金を以つて三尊を鑿削し奉ると伝えられる。此の三尊中弥陀尊は南天竺靈宝山真如大阿彌陀寺に、釈尊は大唐靈水山清浄光院に安置、残りの一休薬師尊こそ三國を伝來して当山に奉安されているのである。これに次いで龍智菩薩は三千三百三十三体の仏像を刻み至心に恭敬礼拝し父母孝養、諸人化益のため各地に弘伝し給う。後龍智菩薩は如来の教勅を奉じ、一切女人の産時の苦惱を消除し、安産守護のため薬師如来の分身三千三百三十三体の守札を作り、普く庶人に授与したるに所生の子女皆容姿端麗で生母又健全なのでこれを後世に伝えた。即ち当山に於ける安産守は此の秘法により嫡々相承し其の教を限り之を一般に貸与し、産後当山へ返戻する例としている。

尚薬師御本願経(略称)には十二大願を發願し、其の御利益として本尊薬師如来を礼拝するものは丈夫の相を具えたる子宝を授かり安産し、病氣、災厄に当るものは産土神として一切の災難を払い且つ所望の心願を成就すと説かれている。本尊薬師尊を守護する眷族に日光・月光兩菩薩がある。



株式
会社

加地和組

代表取締役 川和徳 一

本社 平市 鍛冶町 三一

電話 (二九七〇・二四六三
四六四七)

割烹谷



平市二丁目三九番地
電話二〇〇八・五六八二

トリステーション
喫茶パー
ムーン・レイ
TEL 二〇〇八・八八八



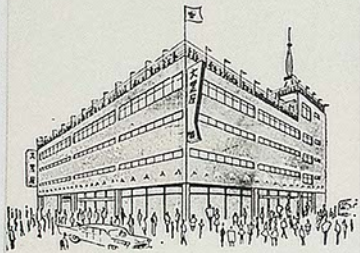
本殿護摩壇と大本坊の景観

由来 旧記によれば当山は初め山王のほこらと称したり、成務天皇の時代に勅して園造、賦主及び稲置を置き建許呂命を以つて石城の園造に任ぜられた。この地方は野猪多く田畑を荒したので命は狩野を命じ、この山に迫り巨大なる赤猪を多数射とめたり、それより「赤猪嶽」と名付くるに至つた。附近に二つ矢山、猪の鼻、大利などの地名及び猪狩の



姓多きはこれによると云う。後元明天皇の和銅六年風土記を作るに及んで赤猪を赤井と改めた更に大同元年当寺を建立するや、弘法大師来つて、独鈷（仏具）を以つて岩面を穿ち、霊泉を湧出す。その水清冽玉の如くこんこんとして尽きず依つて毎晨朝本尊に供するあか水としたのでこれに因んで開井嶽と称したが、難字のため何時とはなしに赤井岳と称せられるに至つた。開山以来三度、山火事に遇い全山焼失す。先住旭純栄大僧正72才の老眼で再興にあたり昭和17年大本堂を落成す。設計は文部省阪谷良之進博士、施工監督同省国宝保存課乾技師、然して中興才35世上野頼栄権大僧正が昭和28年に大本坊を完成す。

楽しいアナタの衣料百貨店

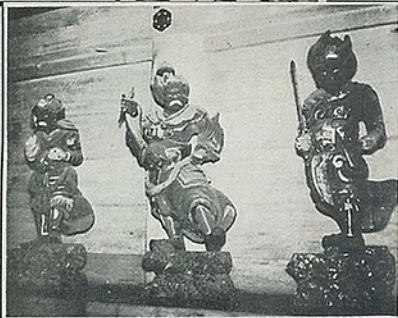


皆様の利益を護る店



大黒屋

平市三丁目 電話(代表) 2191



此のはか明治の文豪大町桂月山人も、この山に度々参籠。また現代作家尾崎士郎氏も大正末期に数ヶ月参籠して処女作の想を練つたのだ。

【漢詩】
遊水晶山 神林惺齋
乱石縱横步更難
梵城高在赤峰端
欲尋芝草行松徑
偶看仙人坐玉壇
巖洞帶烟巢鶴靜
電灯出海晚風寒
來遊或恐山靈怒
蘊奥奇区欲極觀
亂石從横として歩更に難し 梵城高くして赤峰の端にあり 芝草を尋ねんと欲し松徑を行く 偶々看る仙人の玉壇に坐するを
巖洞煙を帯び巢鶴静かなり 電灯海より出て晚風寒し 來り遊び或は恐る山靈の怒を 蘊奥奇区として觀を極めんと欲す

群峯偏似仰威風 谷野險山
大獄き然聲碧空
古在電灯阿誰獻
五雲遙統水晶宮
群峯偏えに威風を仰ぐに似たり 大岳
き然として碧空に聲ゆ 古より電灯あり阿誰か獻せん 五雲水晶宮を遙統す

備仏 本堂左側にあり台は二間四方、仏体は坐像にして丈六尺三寸青銅を以つて鑄造す。江戸神田横塚播磨大條藤原重正、同苗嘉右衛門作なり。

觀世音菩薩像(印度請來)
画幅は明治己酉干園盆会に那珂湊華藏院壽巷美盛師の作。

大黒天像
開運出世を主とす。弘法大師の御自作と伝えられている。

宝篋印塔
高一丈二尺花崗石を以つて五層に造る。宝曆九年当山方二十一を覚英自ら建立すと云う。塔中に宝篋印陀羅尼を收む。

十二神將
日光、月光兩菩薩と同様に木尊薬師尊を守護する神々で十二支を象徴している。此の外七千夜叉が守護する。本尊様を守護すると同時に参詣する善男善女を守護するのである。

赤井岳とさせる雲の深谷に
相呼ぶらしきやまどりのこえ
長塚 節
作者は明治四一年七月五日の晩赤井岳に一泊す、その折に赤井岳の雄大な自然に打たれてよんだものである。



赤井岳三猿

この見張、開袋、言張はみんなベジャ
ンコ頭です。全国、イヤ世界にも二つ
とない珍奇なお猿さんで、この秘めら
れた三猿のオノは赤井臣開山の昔にま
で坂のぼる長話なので、シツクリとお
坊さんに尋ねて見て下さい。

文珠石

観燈亭に行く路の左側にあり高十六尺
にして短矢の残痕あり、嘉永年中に石
工が此の石を割らんとしたところ、其
夜雷轟轟しく鳴動したので翌朝みると
文珠菩薩の尊像が歴然として示現せり
太華にて凡人の働き得べきものに非ず
依つて割る事を中止したと伝う。

胎内潜り

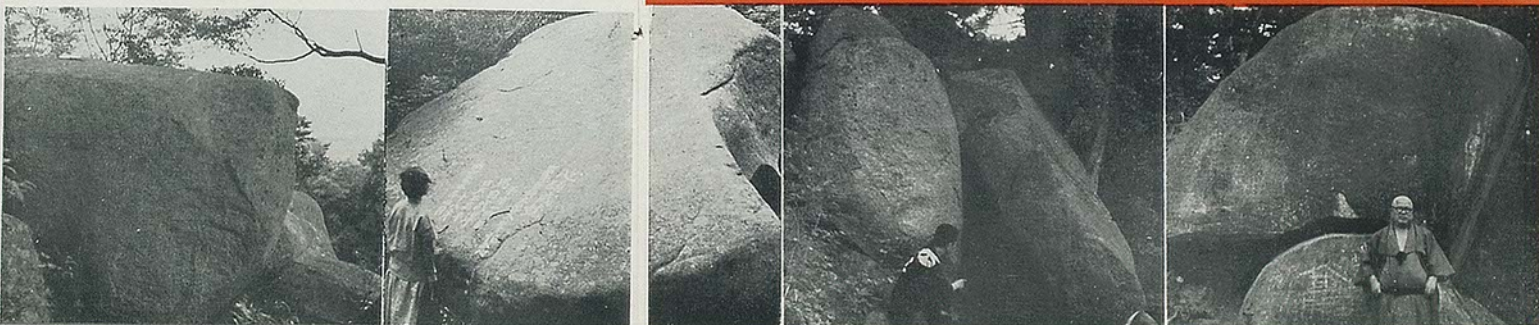
此処は巨石左右より合さり中を潜れる
を以て名あり、安産祈願をなす。右方
の石長一丈二尺余横中八尺余厚さ三尺
余、左方の石は高一丈余中七尺余奥行
一丈二尺余、この石の南面に古人の金
玉の文を刻されているが文字磨滅し読
み難い。

亀石

参道九合目、いよいよ難険にかかる手
前の凹地に海亀に似たる巨岩あり。亀
石と云うが、別名に「山賊石」とも称
される。むかし参詣人を襲う山賊ども
が屯しているのを薬師尊が龍燈場より
御覽になり、巨岩を降して山賊どもを
征伐し参詣人の危難を救つたと伝えら
れている。

燕石

観燈亭の北懸崖の処にあり、長さ一丈
余巾八尺余にして燕の符に飛ばんと
するに似て、その名を燕石とした。此
の石上に坐すと足下に帯のような夏井
川をおき石城五市の景観を見、大平洋
の眺望は正に雄大である。



釜屋

諸橋合名会社

平市五町目六番地

電話 (平)六一一〇五番
(市外通話用)専用九番

赤井嶽薬師名物

龍燈殿中

御贈答品として喜ばれております



松月堂

〒市部 2206 4204



【龍燈伝説】 赤井嶽の薬師堂に、毎夜龍神から龍燈が献げられると伝う。大小数十の火光が夏井の海上に起り、点々明滅しながら夏井川に沿って山頂の龍燈杉の梢に達し、深更に及んで堂内に入ると云う。頂上の蕪石からよく見ると云うが信仰の無い人には見えず、又余り駆けば途中で消え頂きに達しない。一説に龍宮の乙姫が難産の折、この薬師の御利益を得て安産したお礼に龍燈を奉り又薬師は龍神のお蔭で眼病が癒え、お礼に水雲を海へ下げると伝えらる。(表紙説明)
乙姫は月の光をいとうらん 開路はるかに通うともしび

龍燈場(観燈亭)

境内東端に位し安産の感謝をこめて捧げる龍女の献灯、四倉海上より夏井川に沿うて明滅する龍燈を奉拝する所で附近に蕪石及び胎内くぐりの巨巖あり弘法水(独鈷水)

池のほとりであり、昔弘法大師独鈷を以て蕪石を穿ち湧出せしめた霊泉、如何なる大旱にも湧るゝことなく炎熱の候にも指頭凍ゆるを覚う清冽、あか水として用い俗に眼を病める人は霊泉を掬み目を洗えば平癒すと云われ「おみたらし」と称されている。

奥の院

不動堂の背後にあり三間四方なれども白亜の土蔵造りの銅と瓦葺向拝の彫刻は仙台平田喜平の作にて内殿には大極天、諸仏並に宝物を内蔵す。先年の火災に残れる唯一の建造物なり。



龍燈杉

境内随一の巨杉にして其の周囲三十尺許り激々として天空を摩し千古の歴史を秘めている。其の梢の枯れたるは龍燈氏の霊木に停つて消滅するためと伝えられる。

龍の火は海路はるかに通ひ来て杉のこつえに影は消えつゝ、龍の火は関御の流れを攀い来て山の碑に影のひらめく

三十三観音

表参道中仁王門下にあり。昔無名の石工親音彫刻を発願し三十三体を刻む中に、死寂せるため未完成のまま、石上に数多安置す。此処に清水抱えることな句あり。且て大町桂月一山路来て木鼠と飲む清水かな



▽不動産売買仲介評価△
▽貸家・貸間・幹旋△

公認
太平合資会社

代表社員 猪狩 ヨシ子
不動産部主任 板 沢 博

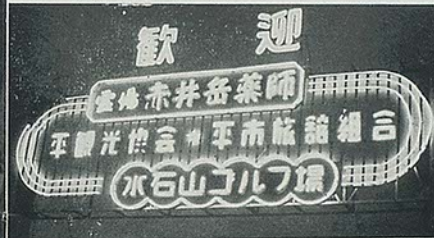
平市田町四番地の一
電話(二〇四六・二〇五六)
(六五四六)



赤井岳柴燈護摩

昭和三十一年錦秋、赤井岳薬師は徳一大師中興開基千五百年を迎え、この開山聖業の御霊徳に酬いるため、中興才三十五世貫主上野頼榮権大僧正以下一山総出仕するとともに、京都山伏修行道大本山圓谷不動院松田亮栄管長以下一山大衆を特請、東北初の柴燈大護摩修行を厳修した。稚見山伏、手鼓舞じやんがら念仏などが参加し総勢一千余名の大行列となり、その壮嚴華麗さは石城の天地を圧する古今未曾有の大祭典であつた。

平駅頭に輝く赤井岳薬師観光ネオン



平市11月23日
磐城市 24日
常盤市 25日
勿来市 26日

滝不動 境内地の南東端天狗沢にあり、二十余尺の滝にして懸崖より急転直下、銀玉砕け水勢散ずるさま壯觀にして真夏と雖ども冷気を覚ゆ、不動明王を祀り水行の場にして源流は三十三観音像の地点に據る。





水石山 雲場赤井岳の背面、西方約二十町を登つて水石山頂上に達す。ここ標高七三七米の雲上のパラダイス水石山ゴルフ場は、常磐総合開発の推進軸として近代社交場の使命を帯びている。山頂からの眺望は、遠く筑波、那須連山、磐梯喜連塞を臨み、太平洋を眼下に收む。野鳥、高山植物、放牧地、バンガローあり、高原情緒に富んだ自然公園をもつて石城の観光センターとして光り出している。



…パン食に優る主食なし…

パン
ケーキ
市川

平市中央通り TEL二九三六
平市駅前大通り TEL五九二六
平市旧城跡 TEL五九〇六



いわき名物じやんがら念仏

国宝白水阿弥陀堂



常磐交通自動車株式会社

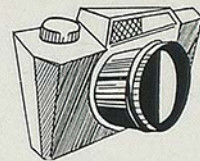
取締役社長 野崎満蔵

本社 平市菱川町 電(代)三一二一
観光社 平市駅前 電 四五四七
営業所 平市大町 電 一五五五三

新しいアイデアと電撃的效果を生む

高砂広告社

代表 高木力
電話(平)二四四七番



カ
メ
ラ
と
小
型
シ
ネ
マ
用
品



カメラセンター **富士商会**

今井速水

平市駅前アーケード街・TEL (平) 4744

観光いわき

赤井臣仁主筆像 全昭世の作にして1丈1尺5寸の威容を存す

